

資源評価調査委託事業

Ⅲ キンメダイ漁業の現状について

漁業資源課 林 芳弘

1 背景・目的

本県でのキンメダイ漁獲金額は年間 8～11 億円に達し（2010～2016 年 高知県属地統計資料）、重要な水産資源の一つとなっている。主要な水揚げ地は、旧室戸漁業協同組合、現在の高知県漁業協同組合（以下、県漁協）室戸統括支所（以下、室戸支所）であり、かつては県内の漁獲量の大半が集中していたことが知られている（明神 2004）。同支所での動向を中心に、本種漁業の現状について取りまとめた。

2 方法

室戸支所における漁獲量及び出漁隻数を、日別、漁場別、漁法別、銘柄別に集計した。2009 年 4 月までは漁協職員が記録した調査票から、それ以降は県漁協の電子漁獲データから数値を得た。また、2010 年以降は、県漁協の他の支所の漁獲量も集計した。

3 結果

（1）県漁協の支所別漁獲量

2010～2017 年の期間、支所別の年間漁獲量では、いずれの年も室戸支所が最も多かった。ほかには室戸岬支所（旧室戸岬漁協）、加領郷支所（旧加領郷漁協）、清水統括支所（旧土佐清水漁協）の漁獲量が多く、この 4 支所で県漁協全体の 93～96%を占めた。

（2）主要水揚地における漁獲量の経年変化

近年は室戸支所で減少が続き、室戸岬支所と加領郷支所は増加した（図 1）。4 支所の中で室戸支所が占める割合は、2010 年は 63%だったが、2017 年には 33%まで低下した。2017 年の室戸岬支所の割合は 25%、加領郷支所は 26%だった。

（3）室戸支所における漁獲動向

①漁法別の漁獲量

直近の 10 年間（2008～2017 年）では、94～98%を立縄（樽流し漁）が占めた。

②立縄の漁場別漁獲量

サウス山の割合が年々高くなり、2017 年にはほぼ 100%に達した（図 2）。

③立縄の CPUE

両漁場とも横ばいか、やや増加気味に推移した（図 3）。

④年代別の漁獲量経月変化

1990～1999 年と 2000～2010 年は大きく変化しなかったが、2011～2017 年は全体に大きく低下した（図 4）。漁獲量の季節的変化の傾向は、どの年代も概ね共通していた。

4 考察

- ・室戸支所の漁獲量は年々減少しているが、CPUE は低下していない。したがって、漁獲量減少の原因は、出漁隻数が減ったためといえる。
- ・隻数が減少した主な理由は、さんご漁への転換が考えられる。ただし、さんごの漁期以外にも漁獲量が減少していることから、漁業者の年齢構成や海況の変化等、他の要因も考えられる。
- ・近年、室戸岬支所と加領郷支所では、室戸支所と同水準にまで漁獲量が増えている。今後は両支所の漁業実態を、より詳細に把握する必要がある。

5 引用文献

明神寿彦（2004）高知県におけるキンメダイの漁獲動向．黒潮の資源海洋研究，5，85-90．

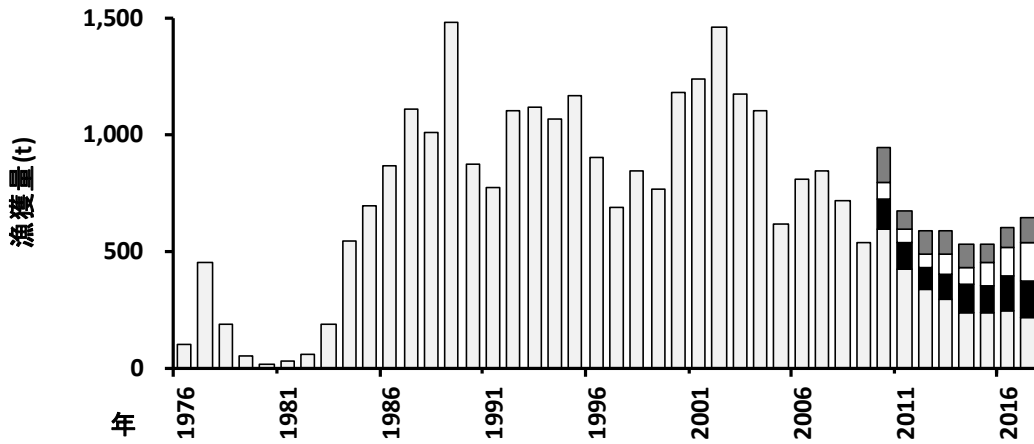


図1 主要水揚げ地における漁獲量の経年変化
 ■室戸支所 ■室戸岬支所 □加領郷支所 ■清水支所。

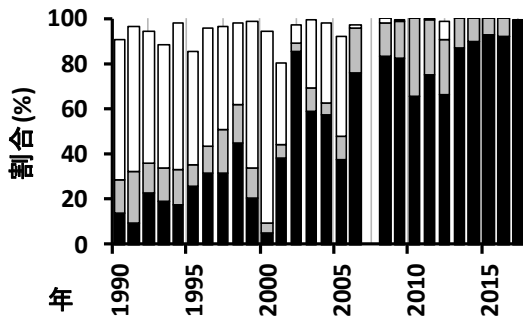


図2 室戸支所の立縄における主要漁場別の漁獲量
 ■サウス山 ■清水沖 □大正礁。
 2007年は欠測。

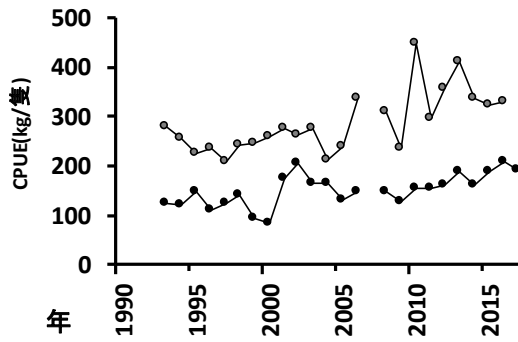


図3. 室戸支所の立縄におけるサウス山と清水沖のCPUE
 ●サウス山 ●清水沖。2007年は欠測。

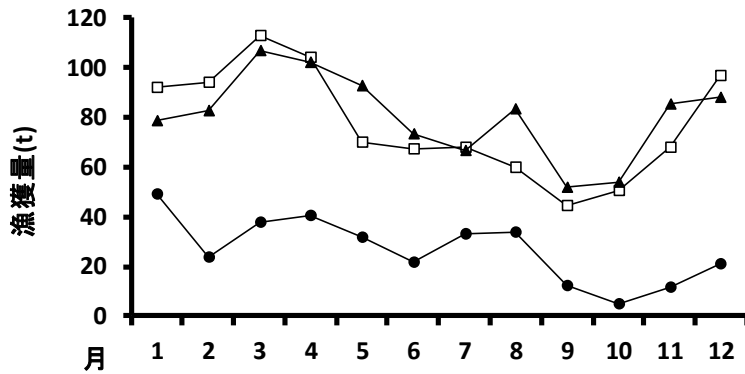


図4 室戸支所における年代別の漁獲量経月変化
 □1990～1999年の平均値 ▲2000～2009年の平均値 ●2010～2017年の平均値。